

研修会のお知らせ

ケース・カンファレンス定例講座 第4弾

—事例を通して語り合う—

— 専門家としての腕を磨き、 専門家としての自分を 語り合うひととき —

今年度は、本センターのスタッフが中心となり、さまざまな研修を提供しています。その第4弾として、本学で社会福祉学を学び、社会福祉現場で現在働く卒業生のみなさんを対象に、定例講座を開催します。卒業後おおむね5年程度のソーシャルワーカーの方々を対象としていますが、その他の方々も広く参加可能です。

2010年度より、本センターでは、毎月一回このカンファレンスを定例講座として行い、若き実践家の皆さんが集い、ケースを通して、専門家としての腕を磨き、専門家としての自分について語り合う場を提供していくこととなりました。一人でも多くのみなさんご参加をお待ちしています。

開催日

2010年3月24日(水)

場 所 同志社大学新町キャンパス尋真館 1番教室

(アクセスはホームページをご参照下さい。http://www.doshisha.ac.jp/access/ima_access.html)

対 象 同志社大学で社会福祉学を学んだ
現任のソーシャルワーカーの方々
その他、社会福祉現場で働いている方々

開 場 18:30～(受付開始)

時 間 19:00開始 21:00終了予定 ※途中休憩あり

参加費用 無料

定 員 15名

講 師 空閑浩人 野村裕美 (同志社大学社会学部社会福祉学科)

この研修会は、文部科学省「組織的な大学院教育改革推進プログラム」(大学院GP)の助成を基に運営されます。

社会福祉教育・研究支援センター・ 事例研究・研修プロジェクトとは

この度、同志社大学大学院社会福祉学専攻の「国際的「理論・実践循環型」教育システム」の構築が、文部科学省「組織的な大学院教育改革推進プログラム（通称・大学院GP）」に採択されました。この文科省助成と本学社会福祉学科の卒業生からの寄付をもとに「同志社大学社会福祉教育・研究センター（Do-ERC-SW）」が2007年11月に設立されました。当センターでは様々な研究プロジェクトを柱に、さまざまな事業を行ってきました。

このセンターの活動も、3年目が終わろうとしています。事例研究・研修プロジェクトでは、ケースカンファレンスとスーパービジョンを理論と実践の好循環を生むてがかりとして、これまで受講生の皆様に各種研修を提供し、その研修の中で学びを活かし、いよいよ「内部からの発信」をする段階に入りました。

内部からの発信の皮切りに企画されたのが、次の3つの事例研修です。第一弾は、開催される夏前の時期を活かして、社会福祉実習受入直前の現任者の皆様に、実習指導におけるいわゆる「困った」学生への指導事例を持ち寄っていただきながら、具体的な実習プログラミングの方法を身につけてもらうという研修です。これは、センターの実習教育研究プロジェクトとの共催で実現しました。第二弾は、保育士や社会福祉士、栄養士、臨床心理士など、多職種が働く施設へ出向いて、ケースメソッド教授法を用いた討議研修を行いました。第三弾は、地域の医療ソーシャルワーカーが開催する自主的な勉強会に出向いて、自己覚知の演習とケースメソッド教授法を用いた討議研修を行いました。

第四弾は、同志社大学で社会福祉学を学んだ 皆さんとともにスタートします!!

2010年度から、毎月一回、事例を用いた勉強会を定例開催することとなります。本学を卒業して5年程度までの若きソーシャルワーカーの皆さんが集う学びの場としてスタートすることとなりました。事例検討、ケース討議等さまざまな演習プログラムを提供していきます。

●申し込みについて（締切り：2010年3月23日 火曜日）

●申し込み方法

①お名前、②御所属、③現在の職種、④連絡先（住所・メールアドレス・電話番号）を必ず明記の上、以下までご連絡ください。

Eメールかファックスのいずれかの方法をご使用下さい。

（なお、ご記入いただきました個人情報は、本研修会に関するご連絡の目的でのみ使わせていただきます）

●問合せ及び申し込み先

同志社大学社会福祉教育・研究支援センター
定例カンファレンス研修担当 宛

Eメールアドレス

ynomura@mail.doshisha.ac.jp

ファックス番号 **075-251-3066**